

「日大プレス」5月末創刊

一緒にプレスしようね

日大プレス

創刊0号

発行所

『日大プレス』編集局

◆カンパ報告◆
昨年、十月二十六日に発行しました、『新聞思潮』第二十二号（廃刊号）に対しまして、三万五三二五円もの、暖いカンパをお寄せいただきました。ありがとうございます。印刷代金に充てさせていただきます。題号は変わりましたが今後もよろしく、

ども、『日大プレス』です。日大法学部の学生新聞として五月末に創刊されます。二年生以上はご存じの方も多いとは思いますが、『新聞思潮』が前身で、このたび題号を改め、装いも新たに『日大プレス』創刊となりました。

この日大法学部には、他大では珍しい「新聞学科」が置かれています。しかし、大学おかけの御用『日本大学新聞』のほかは、ほとんどメディアらしきものが存在していません。憲法で保障される「表現の自由」を教えるながら新聞配布やポスター掲示を規制しているのです。入口で学生証をチェックし、たとえ同じ日大生であっても他学部生は入構できないという、ふざけた「検問」制度が、「自主創造の風をよめない、文化の進展をはかめる（学生証見て）」大学の姿といえるでしょうか。

そうしたなかで『日大プレス』の前身『新聞思潮』は、当初は実習紙の性格をおびていたのが、徐々に学内問題を取りあげていき、学生新聞として育ってきました。創刊されて十年たちましたが、まだまだ未熟で絶えず模索を繰り返しています。

「真の学生ジャーナリズムの確立を！」
大胆ではありますが、このような目標を掲げ、より充実した内容をめざし、『日大プレス』を創刊することになりました。

「学生ジャーナリズム」と言っても、その具体的な定義

づけなど成されていません。「学生の立場に立つ報道を」「学生の視点から」を編集方針にしてきた『新聞思潮』の時代においても、ついに見出すことはできませんでした。結局、「これは新聞を出し続けていくのだからしか見つけないのか」という考えに至ったのです。

そして、新聞を出していくためには、ジャーナリズム一般について学習していかなければなりません。『日大プレス』では新聞製作の糧として、多彩なゲストを招き、あるいはジャーナリズムの現場に接する「ジャーナリズム講座」を行なっています。

日大学生ジャーナリスト会議は、『日大プレス』の発行を中心に、創造性を追求する「なんでもできる」グループです。

時代はなぜ明菜を望むのか

今年の歌謡界をみる場合、やはりその最先頭に立つのが中森明菜だろう。昨年の前半にデビューしてから、まさに怒濤の進撃で突っ走っている。単なる一発屋のごとき、一時的にブームをつくる歌手ではなく、なぞさうだ。既に伝説となっている山口百恵のあとを継ぐような、いわば歌謡界をリードしひとつの時代を形成する実力と魅力を兼ね備えたスター、そのような素質をもっているといっている。現時点では松田聖子と並ん



新聞思潮から日大プレスへ

今後、身につけた編集技術を活かして、サークルの機関誌、ミニコミ、ゼミ誌、クラス名簿、詩集などの制作・編集のお手伝いなどもしていきたいと思っています。また僕らなりの「マス・コミへの取り組み」として、出版プロデュースも模索中です。その他、まだ不勉強なのですが、文字メディア以外にも挑戦します。

「新聞学科」では決して学べない実務的な「取材」「執筆」「編集」技術を得たいと思う方、あるいは自分のもつ技術を『日大プレス』に賭けてみようと思う方——新入生や移行生に限らず、三、四年生でも結構、もうやるっきゃないね！ 連絡先は電話〇三（三一八）二八八五、もしくは『日大プレス』を配っている者に、お気軽にお声をかけてください。

で人気を二分しているが、聖子は時代を象徴できるような人材ではない。なぜか？ このことは、現象として実にファシズムの構成要素と共通性をもつ。時代をつくる、もしくは代表するスター（なにも歌手だけに限らない）は、一般的にファンと呼ばれる支持基盤を獲得し、かつそれをリードしてゆく構造をもつ。しかし、この前提として、より全般的な時代の不安定さがあげられる。

激動の六〇年代、若者は自由を求めた。七〇年代に入っ

来たれ！ 熱きジャーナリスト

ライター・カメラマン・イラストレーター募集

日大学生ジャーナリスト会議

☎03(318)2885

検問突破

インフィクション 写真多数
「族」ドキュメント登場！
全共闘世代11人が全力執筆！
学校にない教科書 80年代の暴走宣言

明日は騒乱罪
戸井十月編 四六判 260頁 1000円

止められるか俺たちを
マリファナ・ナウ 写真多数 A5判 400頁 1900円

マリファナ・ナウ 写真多数 A5判 400頁 1900円

発行第三書館 発売新泉社 東京都文京区本郷2-15-1 20



新生移住生歓迎会

4/16, 22

場所：労音会館

4月16日（土）

PM 1:30 ~ 3:00

504, 505号室

問い合わせは、

0482(66)9875

(PM9:30以後に限る)

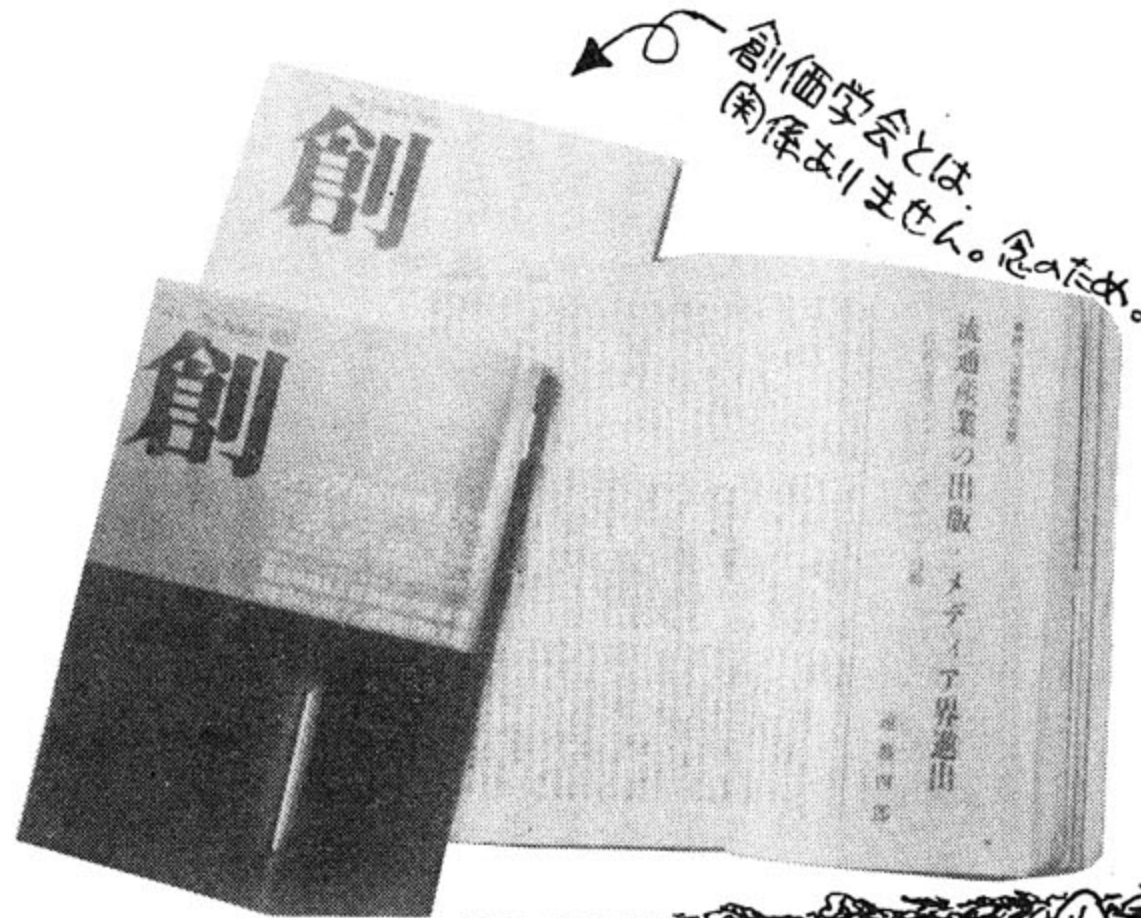
来たる四月十六日に新入生歓迎会（新歓）を法学部近くの労音会館で行います。私たち、日大学生ジャーナリスト会議は、雑誌『創（つく）る』の編集長、篠田博之さんをお招きして、「六〇年代からの雑誌動向」と題する講演会を開く予定です。

『創』は、昨年の商法改正で危機状況においこまれたマインナー系総合雑誌のなかで、自力で広告を獲得して頑張っている雑誌です。最近では、マスコミものを連続して特集しており、注目を浴びています。

当日の講演では、六〇年代以降の総合雑誌、ミニコミの歴史から、現在の言論状況についての興味ある話が期待されます。

その他、いろいろな催しが予定されています。ぜひ、こちらの方にも足をのびて下さい。待っています。

『創』編集長 篠田博之氏講演



創価学会とは、関係ありません。念のため。

<労音会館案内図>



国電 水道橋駅西口 下車5分 地下鉄都営新宿線 九段 下車9分
地下鉄東西線 九段下 下車9分 神保町下車9分
地下鉄都営三田線水道橋・神保町

去る三月二十九日、東京地裁民事十九部法廷において、小林忠太郎農獣医学部講師の日本大学に対する地位確認請求事件の公判が行われた。

この「小林裁判」は、小林講師が日大より不当解雇されたことに端を発し、地裁、高裁における仮処分申請を含めすでに十三年もの間、法廷で争われてきたものである。

それにもかかわらず、当日の公判では、被告日大側代理人が準備書面の提出を故意に遅らせ、この裁判を風化させようとするひきのばし策を構じた。これに対して、原告側の弁護士からはもちろん、裁判長からも厳しい注意がなされた。

公判後に日比谷公園で行われた集会では、「文理学部小林裁判に連帯する会」をはじめ法学部の「反検問通信編集局」の学生、弁護士、支援者などが次々にアピール。

最後に小林講師から「生活を奪われながら闘ってきた法廷において、日大のひどさが明らかにされた。だが、こんなひどい大学だから辞めてしまふのでなく、こんなだからこそ私は戻りたいのだ」との決意が述べられた。

「要請があれば、鉄壁を乗り越えてでも、法学部講堂で講義を行う」と、「反検問通信」企画による四月二十二日の講演会が、学内で開催できないことに対する日大への「いかり」が、柔和な小林講師から満ちていた。次回公判は六月二日午後三時。

…だから
検問反対！



SF特撮集団

アップルパラダイス

連絡先 —

0423(25)6432

反検問通信編集局

連絡先 ☎ 0482(67)9598

海底の神秘を探ってみよう
海の好きな人間来たい
新入部員募集！

日本大学ダイビングクラブ

連絡先 TEL 044-976-2780 (鈴木)